

## 【学校部会】

### 〔開催日〕

- ・第1回：令和4年9月29日（木）19時～ 出席 17名

### 〔協議事項〕

#### 1 交流・合同学習について

○交流・合同学習の意義について（鳥上小：加藤校長／横田小：千原校長より）

- ・交流・合同学習のねらいは3つ。

①再編統合に向けてより良い児童同士の人間関係を作る。

②交流を通して、集団力、多様な価値観・人間観、上下学年意識、社会性、協力心の育成を図る。

③集団の中での揉まれ合いを通じて逞しさを身に付ける。

- ・社会性や協力心は大人数の中で育つもので揉まれ合う経験が大切であり、交流学習は非常に有意義であると思う。
- ・鳥上小学校の4年生1名は、6年生のになった令和6年4月に横田小学校に転入となることが決定している。
- ・今年度は、鳥上小学校と横田小学校と春休みに話し合い、毎月1回交流学習を実施する計画を立てた。
- ・1人で横田小学校の中に入っていくということで不安に思っていたが、幼稚園時代は横田幼稚園で一緒だったので、すぐに打ち解けていき、横田小学校の子どもたちが受け入れてくれて、すんなり仲間に入ることができ、交流学習を楽しみにしている。6年生になり転入するときにすんなり仲間に入っていけると思っている。
- ・交流学習の最初のところでは、仲良くなるオリエンテーションからスタートし、次に社会科見学などをし、学習できる関係づくりや環境づくりをしてから学習につなげていきたいと思っている。
- ・来年度から4校が集まって交流学習をすることになり、4学年で実施することになる。遠足や陸上大会などからスタートしていったら、まずは仲良くなり、最終的に学習につなげていきたいと考えている。
- ・今は、ブックPCがあるので、PCを活用して、道徳など遠隔での授業をトライアルとして10月からやってみようと話している。
- ・中1ギャップという言葉があるが、中学生になり、学級の人数が増え、他校出身の生徒たちと新しい人間関係をつくらなければならないというストレスから学校にいけなくなったりすることもある。今回の小学校の再編統合により、「中一ギャップ」のように、小学生の「再編統合ギャップ」みたいなものを防ぐためにも、交流学習は重要であると感じている。

#### ▼委員の皆さんから交流・合同学習、地域活動についてのご発言

- ・交流学習の重要性を認識した。八川の子は引っ込み事案の子が多いので、八川の子にとっては助かると思う。個性があることも学んでいって欲しいと思う。（公民館長）

- ・ 幼稚園でも各園同士の交流がはじまっている。幼稚園での交流も重要であると思う。(小学校保護者)
- ・ 4校が集まる中で、馬木の子からしたら横田の子は強い感じで揉まれている感じがする。極力、交流はやっていってほしい。ブックPCも使って道徳などの授業をし、まずは仲良くなるのが一番だと思う。(小学校保護者)
- ・ 今、年長児で来年小学校にあがる。八川幼稚園と交流をしていて友達の名前も話してくれる。交流学习は、低学年のころからやっていけばいいと思う。各校の子どもたちが仲良くなるといい。(未就学児保護者)
- ・ 昔は年1回体育大会をしていた。馬木から歩いて八川までいったのを覚えている。その当時、唯一の他校との交流であった。そこで友達ができて中学校で一緒になっても抵抗はなかった。体育大会の交流が良かったことを覚えている。(公民館長)
- ・ 統合ができたときに子どもたちがすんなり入っていけるようにやっていっていただきたい。前例として、亀嵩小と高田小の交流を思い出した。その当時は、特に低学年の交流をやっていた。その経験から低学年の交流が大事じゃないかと思う。低学年の交流を重要視してやっていくといいと思う。(公民館長)
- ・ 交流学习は違いを発見できるいい機会だと思う。違いがわかるからふるさとを語ることができると思う。(小学校保護者)
- ・ 特別支援学級に在籍していたときに他校と交流学习を保護者も同席して実施していただき、とても良かった。(未就学児保護者)
- ・ こうやって鳥上小と横田小の交流学习が行われていることは知らなかったが、いい取り組みだと思った。1人なので、鳥上地区の皆さんは心配している方が多かったので今日聞いて安心した。同じ自治会でよく知っている子なので、編入が決まったときに不安もあったと思うが、引き続きしっかりサポートしていただけると嬉しい。(未就学児保護者)
- ・ 21名の園児が通っていて、他園との交流を増やしている。主に、横田、八川とやっているが、仁多地区ともやっている。このように交流学习が始まっていることを聞いて嬉しく思う。それぞれの地区のよさを残していってほしい。バス通学でバスに乗っている時間が長くなるので、バスに乗っている時間も楽しく過ごしてもらえるといい。(幼稚園園長)
- ・ 96名の園児。1組15人程度の人数で揉まれて育っている。他園との交流も近年実施している。新たな仲間づくりも子どもたちの成長につながっている。鳥上地区にも出かけて行って幼稚園を拠点に、田んぼ活動の交流や公民館との交流をしながら他地区の良さを発見できるようにしている。八川の鯉のぼりを見に歩いていたり、馬木の砂田川も見に行った。秋には、干し草ロールのお絵描きを八川、馬木、横田合同で実施する計画である。(幼稚園園長)

- ・17名の園児。少人数であり1組マックスは5名。少ない組は2名。少人数でも異年齢で関わる方がいいところで、放課後児童クラブも併設しており、小学生との交流もいい刺激になっている。八川の子は引込み思案。自己発揮して行ってほしいと思う。大集団に触れておくと、いろいろな面が育まれるいいと思う。小さな拠点づくりなど地区の活動が盛んになっているので、地域の先生として子どもたちを育ててほしい。(幼稚園園長)
- ・人間関係づくりにとって非常に大事ということを共有したい。成果がどうだったのかという曖昧になると思う。評価の基準見たなものをつくっておくといい。(学識経験者)

### ○地域学習の現状

- ・ふるさと教育学習内容一覧（奥出雲町教育委員会教育魅力課提供）  
学校再編推進課から資料の説明
- ・公民館活動について  
【横田公民館 館長】
  - ・「ふるまいよし、ふるさとよしの人づくり」を大きな柱に掲げてやっている。
  - ・横田小学校とは、距離が近いという事で色んな事を連携しながら活動をしている。
  - ・ふるさと学習では、横田地区の方でも頑張っている六日市自治会のオオムラサキの保存活動を知るため、今年は3年生がオオムラサキの学習している。また、加食自治会でオオサンショウウオの保護活動をされており、4年生が斐伊川学習の一環として学習している。
  - ・公民館活動と言うのは単発になる事業が多いが、その中で、4年生と年間を通して、4月のアユの稚鮎の放流から始まって、斐伊川の水辺の学習を継続して、楽しくこちらもさせてもらっている。
  - ・小学校と公民館とが話し合いをして、総合学習の内容などを決定した経緯があり、地元出身の教員が少なくなり、地域コーディネーター的な役割をされる方がおられず、公民館がその役割を行い、地域の人材や地域行事をコーディネートしている。
  - ・公民館は、やりっぱなしと言うところが多く、年度末に担当の方と公民館としっかり話して、来年度どうしようかという事を協議する時間を持ってないのが課題。
  - ・特に4つの地域の小学校が一緒になるという事で、統合小と各公民館との連携が課題になると思う。

### 【八川公民館 館長】

- ・公民館で企画するものは、主に体験活動で「そば打ち」「しめ縄作り」など。これは体験プラス世代間交流という事で、高齢者との関わりも考えて実施している。
- ・八川地区独自の取組みとして「通学合宿」をやっている。公民館に寝泊まりをして学校に通うもので、団体での生活を体験させる、ルールを守らないといけない等、そういった体験をしている。
- ・小学生の頃は、公民館にも遊びに来て、大きな声で挨拶が出来るけど、中学校に上がったとたんに、挨拶もないとか、見えているはずなのにそっぽを向くとかいう子も出てくる。どうしても子どもたちは、おじさんお婆さんとの関りよりも、若い年

代と関わっていく経験も必要だなと、その辺が一番重要だと思っている。

- ・近年は、振興会の方に若者会があり、小さな拠点づくり推進委員会の中にも若い方がたくさん参加しており、若い方を前面に出して子どもたちの関りを持つような企画を増やしていった。
- ・「ふるさと八川」をいつまでも思ってくれる子どもに育っていったるように事業展開をしている。

#### 【馬木公民館 館長】

- ・馬木公民館の活動は、まずは地域の伝統を守る、知るという事で、小学校5年生・6年生を対象に小森子ども神楽の取り組みをしている。6月から11月の文化祭まで、子どもたち毎週水曜日に集まって夕方16時から1時間ほど練習をしている。今年は、5・6年を合わせて19名でやっており、地元の小森自治会から指導の先生にきていただいてやっている。発表は、9月の小馬木八幡宮の例大祭、10月の大馬木の例大祭、11月の地区文化祭で地域の皆さんに披露をする。
- ・地域の人を知るという事で、青木實三郎先生の事を知る色々な学習をしている。
- ・馬木の自然を知るという事で、馬木にある特定公園吾妻山の登山を自然観察会も兼ね子ども達に募集をかけて、夏休みの登山、紅葉登山というのをやっている。
- ・地域の食という事で、奥出雲町と言えば仁多米ということで。小学校でも奥出雲仁多米株式会社から、米の事を詳しい先生を呼んで学習された。地域の人と、触れ合う機会を作らないといけないという事で、毎年、馬木小学校の前の田んぼで、「マキ田くん」活動として、田植えから刈り取りまで地域の皆さんと一緒にした体験をしています。
- ・いずれの活動も小学校との連携した事業で、校長先生以下、いろいろご配慮いただいてこういう取り組みを毎年続けている。
- ・夏には、サマースクールという時間を設け、勉強したり「たたら」のことを学んだり、体験学習を取り入れてやっている。

#### ●コーディネーター役について

##### 【事務局から（学校再編推進課）】

- ・各公民館長さんと学校を結ぶコーディネート役を設けるという事も必要ではないかと検討段階に入っている。文部科学省などもコミュニティスクールの中で地域学校協働本部を設置して、地域との連携強化を図るといっているのので、検討をしているという事をご承知おきいただきたい。

#### ●ご意見

- ・コロナ禍前に子どもと一緒に公民館の活動、習字教室、ハゼ釣りやスケートに行かせてもらって、本当に地域との懸け橋になってくださっているのが公民館の活動だと思う。個人的には。馬木の小森神楽はすごく興味があり、親も興味が出るような活動だと思う。地域を越えた活動を誰かがコーディネートをしていって、幅を広げ、いろいろな所に子どもたちが参加できるような取り組みをしていただけないかと願います。（未就学児保護者）